

潮騒通信

潮騒ジョブトレーニングセンター

Drugs and Alcohol Addiction Rehabilitation Center

一部 100円

どっこい生きてます!



巻頭言

MESSAGE from YUTAKA

メッセージフロムゆたか

コロナ禍で 潮騒独自の日常と 生活スタイルを模索!



新型コロナウイルスの恐怖が世界を苦しめる中で迎えた2021年ですが、依然として収束に向けての気配は感じられません。コロナ禍の猛威はNPO施設の潮騒ジョブトレーニングセンターを直撃し、文字通り厳しい「冬の時代」を到来させています。私自身が高齢の身とあってひとさわ敏感になっている面は否めませんが、施設の代表者として弱音を吐かせてもらえば、「基礎体力の弱い潮騒が果たしてどこまで持ちこたえられるだろうか…」との不安が頭をもたげ、日々心が揺れています。私たちにできることは感染予防の日常に気を緩めることなく、「冬来たりなば春遠からじ」を信じ、苦難に耐え続けるしかありません。苦しい時の神頼みではありませんが、新年を何とか希望の持てるものにしたいと1月半ば、家族や少数の職員、仲間たちと地元の鹿島神宮に参拝しました(表紙写真)。神宮への初詣は潮騒JTCの年頭行事ですが、密を避けるために一部関係者だけで行いました。

おさらいになりますが、私たちの活動は▼仲間との絆を信じ、ミーティングと転ばぬ先の杖である回復プログラムに身をゆだねる▼仲間同士が直接に集い合い、お互いの顔を見て元気であることを確認し合う▼ハグをして「今日一日だけはアルコールや薬物、ギャンブルをとめ続けよう」と誓い合うスタイルです。仲間から孤立することなく、人間らしく生きることの原点を求める極めてシンプルなものです。悲しいことにコロナ禍はこうした活動にバツンを付けています。第3波が押し寄せつつある今、私たちがミーティング会場として必要な公民館などが使えない事態がまたもや出現し、日常の買い物、散歩、運動、行事…すべてがストップ状態です。必要な

こととはいえ、「密を避ける」をこと強いられた施設の仲間たちのストレスは臨界点に達しつつあり、日常の小さいいざこざやトラブルが、いつ施設破壊の引き金になるかは予断を許しません。

ご存知かと思われますが潮騒JTCは、「どんな人でも回復に向けた支援を惜しまない」をモットーに、既存の福祉施設などから弾かれ、行き場のない高齢者にも救いの手を差し伸べています。結果、入寮者の平均年齢は今や50代後半になり、「超高齢化」の実態がコロナ禍の高いリスクとなっています。こうした逆境の中で、依存症の回復を目指す施設運営を続ける潮騒JTCにとっての新たな日常生活スタイルとは何なのだろうと、私は老いた頭で考えあぐねています。ひとつ言えることは、コロナ禍は誰もが当事者となり得る要素を持つことから、潮騒JTCの原点でもある当事者活動の感謝の意味と価値を改めて再確認させています。もはや他人事ではないとの認識は、日陰にある依存症の回復に一筋の光を当てるかもしれません。

長く異端の人生を歩んだ自分が回復できたことを「奇跡」と考える立場から、私は「百人いれば百通り」の回復の仕方があるべきと考え、12ステップ・スマーブ・条件反射制御法など専門プログラムの受け皿を整備し、関連のクリニックや高齢者介護施設と連携した施設運営に力を入れています。たとえどんな問題を抱えている仲間でも社会に出られるようにと、農業を中心にした就労支援にも力点を置いています。結果が出るには時間と労力が求められますが、支援者の力を借りながら引き続き努力を惜しまず、牛歩ながらも前進していきます。どうか今年も宜しくお願いします。(法人理事長 栗原 豊)

コロナ禍における施設運営の 課題と展望

依存症の回復とは逆の流れに

どう 抗する?

第1回

昨年には開設15周年の節目を刻み、鹿嶋市を拠点に鹿行地域において着実な歩みを続ける潮騒 JTC ですが、巻頭言(2ページ)で栗原センター長が苦しい胸の内を明かしているように、その運営は難しい局面にぶつかっています。高齢入寮者の急増に対応した施設の大規模化に加え、コロナ禍の打撃をまともに受けているからです。今後できるだけ国の障害者福祉制度をうまく取り入れていく運営方針に変わりはありませんが、現状の困難な課題解決に向けた新たな取り組みも始まっています。この「潮騒通信」も昨年の空白期間を経て何とか再刊に漕ぎ着けましたが、潮騒 JTC における試行錯誤の最近の動きを3回に分けてレポートし、コロナ禍における施設運営の課題と展望について考えます。



「コロナなんかにはこたれない」「すべては仲間の回復のため」「やれることは何でもやる」――。来月には78歳の誕生日を迎える栗原豊センター長ですが、持ち前のバイタリティーで仲間の回復支援に力を注ぐ決意を示します。その熱い思いを横目に、コロナ禍はいまだ収束の兆しが見えません。それでも緊急事態宣言の発令のタイミングの遅さなど国の対策も感染拡大の実態とズレが目立ち、後手に回っている印象がぬぐえません。

潮騒 JTC のような依存症の回復支援施設にとって、コロナ禍への対応が困難を極めているのは、従来の回

復の在り方を根本から覆す意地悪さが垣間見えるからです。具体的には新型コロナウイルスという「見えない敵」への対策が、例外なく人と人との距離を広げることを求め、新たな生活様式を強く促していることにあります。こうした方向性はもはや社会常識として受け止められている感がありますが、依存症の回復にとっては逆風そのものであり、一様にダルクなど回復施設を苦しめています。

仲間が自主的に集い合う夜間の自助グループも含め、ミーティング用の公共施設がほとんど使えなくなり、多くの施設では対外的なプログラムを組めないことから、勢い施設内での限定的な活動になりました。このため小規模施設では日がな一日、同じ仲間が施設内に引き籠って顔を付き合わせて暮らす場面が続き、ストレスが半端ない状況に追い込まれているようです。

しかも、回復の柱となる施設内のミーティングも「ソーシャルディスタンス」への配慮が優先され、ことなくよそよそしい雰囲気漂っています。一部施設はパソコンに習熟したメンバーの力を借りてネット配信によるオンライン・ミーティングに移行し、ポストコロナをにらんで何とか活路を見いだそうと試行錯誤するケースもあります。

しかしながら、改めて力説するまでもなく依存症の回復は、「仲間から孤立しない」という大原則に支えられています。残念ながら社会全体で指摘されているコロナ禍への対応は、依存症の回復とは逆方向の流れを形づくっています。コロナ対策にとって、これまで当たり前だったことがことごとく否定され、これに抗(あらが)うことが、まるで犯罪的であるかのような空気が巷にあふれ、ますます依存症の回復施設を窮地に追い込んでいます。

潮騒 JTC も昨年1年間はコロナ禍に振り回され、節目を祝うはずだった「潮騒15周年記念フォーラム」の中止をはじめ、ほとんどの行事や入寮者の回復を下支えする日常の各種プログラムが、「三密を避ける」という施設の防衛的な意味から活動中止に追い込まれました。

こうした逆風の中で、栗原センター長は「コロナ禍で施設運営は胸突き八丁を迎えている。でも“来る者は拒まず”“仲間は家族だ”の方針を変えるつもりはない。課題解決に向けた現場での取り組みを強化し、従来のやり方を柔軟に修正していく。潮騒の主役はあくまで入寮者であり、試行錯誤しながらコロナ禍における新たな体制で施設を支え合う仕組みを定着させたい」と決意をにじませました。(次号に続く)

2021 今年の抱負

仲間の幸せと資格取得、 施設職員の実現を願う

女性ハウス「るみの家」施設長

栗原ルミ



辞書を引くと、抱負とは「心の中で思っている計画や決意」とあります。私は施設の仲間達が幸せになる事を願っています。幸せの中身はその人によって異なり、また様々なことで感じられると思います。その為のお手伝いとして何ができるか、と私は考えます。それが私の仲間達に向けた今年の抱負です。

では私は今、幸せなのか? 「ハイ、幸せです」。だから皆に伝えたい。この幸せを分け合いたい、と! なんだか背中がくすぐったくなる話に聞こえるかと思いますが、本音として心の中でそう思っています。いや、思っていることを口に出して決意しているので、計画も立ててみようと思います。

女性ハウスは潮騒ジョブトレーニングセンターのモデルになる施設のひとつとして、基本となる回復のプログラム(ミーティング、生活訓練)や社会復帰のための就労プログラムなどを、さらに充実させて継続と向上に力を入れたいと思います。

その中でも、有給スタッフの育成と各作業所の指導員になれる人、責任者になるための資格取得の研修などに、より一層力を入れます。既に私と共に実践している仲間もいますが、女性ハウスひだまり作業所、百寿デイサービス、おらげのかまど食堂、子ども食堂たんぼぼで就労している人の中から、仲間の為に手助けしてくれるリーダーを育成したいです。

百寿では介護の資格を、かまどでは調理師の資格を取得した仲間がいます。リーダーとして当事者職員になり、仲間のお手伝いをする決意もしています。もちろん「るみの家」スタッフ、ひだまり作業所にも今年花開くかもしれない仲間がいます。とても楽しみです。

コロナ禍の影響で昨年からの施設内も暗い話題が多くなり、外出も行事ごとにもままならない大変厳しい状況が続いています。それだけに当事者の回復と成長は、施設にとって希望の光であり、とても温かい話題です。どうか支援者の皆様も温かく見守り、応援してください。ゆっくりではありますが、着実に成功につなげていきたいです。

私の個人的な抱負としては、栗原センター長のパートナーとして良き妻、そして子供たちへの手本となる良妻賢母として家族を支えられたらと思いますが、私にとってはまず良妻賢母が難しく、問題がありますね。なので、とりあえず間もなく78歳の愛する夫の無病息災を願って、私にできることをしていきたいと思っています。

最近、その夫に「エロボケ爺みたいね」と言ったら、「俺はまだボケてはいない」とエロ爺の方は認めたいです(笑)。どうやらセンター長にとってはそれが若さの秘訣のようですからね。だから私も受け入れることにします。

昨年より職員の斎藤(アノニマス名・ろこ)が、私ルミと男性施設の仲間と共に介護職員初任者研修を受けており、この資格を一緒に取得したいと思っています。これはセンター長のためではなく、作業所で必要な資格を取るためですが、けっこう百寿にいる人の事や、高齢の方に目が向くようになりました。

この16年間施設で回復の在り方や私達夫婦の形も変化してきたようにも感じます。それだけに、この間には色々なことがありました。今後も色々あり続けるとは思いますが、施設も私達もハイヤーパワーに導かれていきたいと思っています。今年も潮騒JTC唯一の女性回復施設「るみの家」の活動にご注目ください。

新たなサポーター制度で 仲間を職員に！

農作業指導、トラブル対応、サポーター相談役、
エイサーリーダー

加勢ヒトシ



私が潮騒で任されている業務内容は、農作業指導（B型就労支援作業所の現場指導や監督）、昼夜を問わない入寮者の各種トラブルへの対応、新しくつくられた「サポーター制度」の相談役、エイサー（鹿嶋琉球太鼓）のリーダー…と多岐にわたります。このうちサポーター制度は、従来のスタッフという呼称が外部からは「施設の専門職員と混同され誤解を与える」との声を受け、新たなイメージを付与して創設されました。

ご多分に漏れず潮騒JTCも、2020年はコロナ禍により一年間のイベント（運動会、海水浴、BBQ、地域祭り、15周年記念フォーラム…）がほとんどできない状況でした。このうちエイサーは地域イベントと千葉ダルク応援で演舞回数は少なかったのですが、その分実りある「気付き」が得られました。

また、日々の流動的な出来事の下支え役となっているサポーターの支援に着目して、新たに「サポーター&ワークサポーター制度」を導入。従来の年功序列やクリーンタイムに囚われず、その人の人間性や実績、回復の度合いなどを総合的に評価するシステムです。潮騒JTCの要となっているサポーターたちから新しいメンバーへの手渡しが、比較的スムーズにできるようになることを狙った手直しです。仲間の絆を強くする意味でも、互いに寄り添い合うことで、良いことも悪いことも皆で分かち合うようにしました。

これら組織の一部修正は、潮騒JTCの特徴でもある就労支援につながる、新たな「出口」を模索する試みでもあります。私としては、本人が希望すればサポーターから施設職員となる道筋を、目に見える形

でつくり上げたかったからです。これについては以前に失敗した苦い経験があり、同じ轍は踏まないためにもやり切りたいです。社会に出ての就労だけではなく、潮騒JTCの人材不足を補うと同時に、新旧交代を促して組織の循環を良くし施設全体の活性化につながるものと、栗原センター長も期待しています。

増え続ける高齢入寮者に対応しながら、NPO法人としてのメリットを生かしてダイナミックな活動を今後も持続的に展開するためにも、今の潮騒には組織的な動きが不可欠です。当事者による仲間への回復支援に加えて、地元の支援者や理解者、行政、各種団体との付き合いや連携により、地域で生きるための社会性（社会常識や倫理観、人との付き合い方など）を必要とする場面が多くなりました。

以上のように私にとっての2021年の目標は、自前での人材育成に努力することです。創設された「新たなサポーター制度」を活用して、仲間たちを職員にしていく道筋に力を注ぎたいと思います。就労支援としては、社会復帰するメンバーのサポート、事業所での就労などに助力していきたいです。

潮騒グループ全体の中でも、新たなサポーターは組織の要となるメンバーです。コロナ禍で年間予定や事業予算などを立てにくい中、自分たちが必要とされる存在となり、求められる具体的な数字や内容を把握して、何をしたらどうなるか？—などに自発的に取り組む体制にしていきたいと思っています。なので、今年の抱負は「皆で知ろう！皆でやろう！」です。これを目標に据えて今年もコロナ禍に負けずに頑張ります。

「るみの家」めいの 回復(途上)物語

こんな私でも 変われると信じて…

vol.8

13ステップの失敗から 奇跡のクリーン1年へ



「あんたはまた子供を 捨てたんだよ」

東の間の13ステップ(疑似恋愛)に逃げ込んだ私でしたが、仲間だった相手の男性から愛想を尽かされ、途方に暮れました。仕方なく買ってもらった携帯を使い、逃避先からルミさんに電話して助けを求めました。怒りながらもルミさんは、「とにかく手持ちの1000円で帰れるところまで帰って来い。乗務員が切符を見に来るかもしれな

いから、寝たふりしてなさい」と言ってくれました。私は言われたとおりにして施設(るみの家)に帰ってきました。

最寄りの駅まで迎えに来てくれたルミさんは、予想に反してあまり怒ってなくて逆に私の方が拍子抜けしてしまいました。仲間みんなに受け入れられないようなことをしてしまったので、仲間からは「帰って来ない方がよかった」「受け入れられないよ」という声が上がりました。優しいスポンサーでさえ「いい加減にしろなさい!」とあきれ顔でした。私は罪悪感でいっぱいでした。

ルミさんに言われたのは、「あんたはまた子供を捨てたんだよ」でした。その通りでした。私は息子よりも自分を優先していました。妊娠中もそうでしたが、あの時も子供の健康より、吐くことを優先させていました。またもや何も変わっていない私でした。ルミさんからの知らせを受けた母からの手紙には、たった2行、「あなたの息子は大きく成長していますよ。あなたはどうか?」。私は何も言い返せませんでした。変わりたいのにどうしても上手くいってくれない…、私自身どうしていいのか分かりませんでした。

涙でもらった 1年クリーンのキータッグ

そこから私は初めて努力というものをしました。とにかくクリーンを続ける、ルミさんや両親をもう泣かせたくない、息子を3度目は捨てない、仲間に受け入れられるような自分になる…。私はまず、それまで適当にやっていた食事当番を、愛を持ってやるようにしました。なかなか上手くいきませんでした。少しずつ変わっていきました。

食事当番と一緒にやっている仲間にも優しく接するように心がけました。どんなプログラムも一生懸命やりました。ステップも読みあさり、自分なりに勉強しました。困っている人がいたら何回かに1回は声を掛けるようになりました。とにかく必死にクリーンを保っていきました。そしてついに奇跡の1年クリーンを迎えることができました。

全て仲間のおかげでした。私を追い出さず、受け入れてくれたから…。独りだった私に声を掛けてくれたから…。1年クリーンのキータッグは泣きながらもらいました。翌月早々にはクリーンバースデーを祝ってもらいました。スポンサーを始め、みんなが温かいメッセージをくれました。涙が止まりませんでした。色紙ももらい、ルミさんからの言葉には「色んな事がありすぎてやっぱり信じられません。ここから本当のプログラムが始まりますよ」。そう書いてありました。(次号につづく)

受刑者 からの手紙

「受刑者の手紙」は本来は公開されることを前提としていない私信ですが、当事者の本音が書かれており、依存症回復の第1歩である「自分に正直になること」を示す手本です。プライバシーに配慮し、掲載させていただいています。

潮騒の仲間になれるのならば歩を進めていきたい

シゲさん、お元気ですか。今日さっそく近藤恒夫著「拘置所のたんぼぼ」を少ない時間の中で拝読しました。読むにつれ心の中がざわつき、複雑な気持ちになりました。私も薬に手を出したのが18歳の頃であり、薬に狂っていた時期がありました。今考えると、自分でも恐ろしく思います。薬は本当に魔物です。たった一度だけでも手にしたら奈落の底です。そこから這い上がるには一人では困難です。

そう思いながらも、この有様です。今の私は堀の中だからこそクリーンでいられます(手を出せないと分かっているから…)。でも、一步外に出たらと思いますと、ブレーキが利かずに猛突進してしまうのではなかと、いまだに自信が持てずにいます。これを本当に最後にしないと、行く末は…。どちらにせよ、潮騒の先輩達の力が私には必要だと思います。立ち直すには仲間の支えがなければ無理なのではないかと思っています。

薬の話は堀の中では常に出ます。心が落ち着かない事も多々あります。娑婆にいる頃は自分から逃げることから始まり、薬で自分を誤魔化していました。このままでは先が見えています。こんな私に今、何ができるのでしょうか。生まれ変わることが本当にできるのでしょうか？正直今のところ自信がありません。自分を好きになれずにいます。弱気な事ばかり思ってしまうです。

私は一度だけの懲罰だけで、今の工場でしがみついています。やはり国の情けが欲しいから、と心が揺らいでおります。懲役は落とし穴ばかりです。もらい事故だってあります。その壁を乗り越えて卒業したいです。正直、私は短気です。我慢のしっぱなしです。いつ爆発するかと思うと恐ろしいです。それでも我慢の連続です。

シゲさんの手紙には勇気を持てます。ステップアップしなければ何も変わりません。心がまだ定まっていますが、潮騒の仲間になれるのならば歩を進めていきたいです。変える心、勇気を持てるならば信じていきたいです。また手紙をしたためます。

(東京都 Mさん)

栗原さんの強い指導力と的確な舵取りに期待する

拝啓 ダルクなど依存症の回復施設は仲間達と様々な人々や社会と触れ合いながらプログラムを進め、社会復帰するものだと思いますが、コロナ感染症が完全に終息しない限りは、新しい生活として人とはソーシャルディスタンスを確保し、不要不急の外出を避けるべきとされるところ、果たして共同生活を行ってプログラムを実行できるのかと懸念致しております。

もっとも先の事は予測がつかないので、仮出所する頃の事など誰にも分からないですが、世の中がどのように変わろうとも、栗原さんの強いリーダーシップと的確な舵取りにより、巧く導いてくれると信じております。またプログラムの実施環境が変化しようが、内容が変化しようが、防護シールド着用を余儀なくされようが、共同生活でストレスが溜まろうが、すべては覚醒剤を止めるという大事の前の小事です。そのように決意しておりますので、今後とも宜しくお願い致します。敬具 (大阪府 Iさん)

しおさい俳壇

1月のお題 雪景色

選者 桐本石見

特選句

亡き父の
故郷懐かし雪景色

みく

この鹿島神栖地方では雪が少ないが、時折に積もる雪に亡父の故郷を思い出す。山国か海か島かも。雪の白さにメルヘンの山河を想い、齢を重ねると人は余計に故郷が懐かしく、子の日を思う句。

特選句

雪達磨
共に眺むる雪景色

くま

雪が降ると学校や家でも何故か雪達磨を作る。大昔の子供達も作ったのだろうか。生まれた雪達磨と共に山や野の木や竹に積もった雪景色を眺めるのも、達磨への哀憐の面白い句です。

特選句

冠雪の
男体女体筑波山

ゆたか

筑波山は男体山と女体山の二峰からなり、紫峰とも言われ、古来から歌垣の山としても名高い。その筑波に雪が積もり、遠くから眺めるのも美しく男体、女体山と言うのも艶冶(えんや)を誘い、歌垣の山に相応しい句。

今月の秀逸句

秀逸句

るみの家
窓を開ければ雪景色

ミニ

この神栖では二月も遅く雪が降ることが多い。前日晴れた翌朝に雪野原を見るのは驚く、しかし稀の雪に清々しい思いにもなる。雪国とは異なる思いの句。

バスクリン

湯舟の色も年新た

克明

バスクリンには薄い緑、青、黄、桃色などや温泉の効能を加えた物などある。何時もと違う色に初風呂も新年の思いがする。身近で実感の句。

托鉢の
僧の一人も雪景色

あべ

托鉢は僧の修行の一つで月に一度くらい行う。京都など多いが、今では托鉢が修行かの疑問もある。しかし雪中を行く僧には孤高を思う句。

北国へ
記す返信雪景色

シゲ

外の雪景色に父母か友人へ返信を書く。その北国と言えば北海道や青森秋田など思い、鹿島などと比べ様もない深雪。今はメールが多いが手紙は心温もる。

混浴の

猿か湯舟の雪景色

ヒロ

長野県山ノ内町の地獄谷温泉では野猿が温泉に入る姿が報道される。昭和34年頃に子猿が入ったのが始めて、今では観光の一つ。猿の混浴も面白い句。

遠富士の
八面玲瓏雪景色

スオウ

富士山は世界遺産になり、三保の松原からの眺めが一番美しいと言われる。玲瓏(れいろう)は美しい意味でもあり、雪の富士の形容に相応しい。

佳作

綿雪の白い妖精舞ひにけり	ちあき	きらきらと松の樹氷の朝日かな	ゆーみん
ゲレンデの朝の日を浴ぶ雪景色	なん	雪景色雪がちらちら降ってをり	ニモ
露天湯に眺める山の雪景色	いるか	雪景色しんしん心温まる	まこ
窓開けて家の遙かも雪景色	みっちゃん	喧嘩して弱きが吠ゆる冬の犬	タイチ
この町も一夜にvari雪景色	れいこ	今朝はまた辺り一面雪景色	チャコ
雪の華山の故郷を思い出す	ミヤ	雪を見て炬燵の上の雑煮かな	あっちゃん
南国に雪を見たしと夢に待つ	レモン	山々の遙か見上げて雪景色	あきら
手を擦り窓を開ければ霜柱	しの	雪化粧遠き彼女を想ふかな	?
水郷の朝日に眩し雪景色	ひーちゃん	雪景色みてまた遠き恋心	ブッチ
今年また雪の中なる湯泉湯	オノ	恥じらひの隠す様なる雪化粧	えび
雪景色見ての山宿鍋料理	のん	光り浴び輝く雪に息をのむ	めい
旅の宿窓一面の雪景色	ロコ	犬が跳ね鎖も跳ねる雪の道	ゆたか
山国の空港の壁雪景色	しま		

俳句へのいざない

第十二回 生きた証

人類は何万年も前から営々と生き継ぎ、その中で足跡を残すことにも拘(こだわ)りました。始めは遊びか仲間への伝達のためかも知れませんが、記号や文字など考案され壁画も生れました。日本でも千余年前には詩歌や俳句、源氏物語など書かれ現代ではITや写真、絵画小説など一般人でも記録に簡単に残せます。

無論後世に名を残すほどの名作は無理としても、個人の日記や所属する仲間レベルの句集や写真集などは少しの努力で残せますし、それが細やかながらも生きた証の一コマでもあります。

またスポーツの記録は数値的ですが、足跡と言うのはそれ等を含めて人間の運不運などの悲喜交々、笑いや泣き声が聞こえるようでもあります。写真の顔、詩歌の一句にもその折りその刹那の感動が伝わる思いです。

その事からして人と生れ、人として生きて来た証を残すことは多に価値のあることと思いますし、この度刊行された合同句集「潮騒」などもその一つで、仲間が助け合い共に生きた悲喜交々の声でもあります。

俳句は十七文字で言いたい事を全部言えませんが、恋の告白は「好き」の二文字で足りると言われますので、十七文字あれば季節の花の季語を添えて愛を告げることができます。恋の齢を過ぎた方は自分の生きた証のためにも、一句を詠まれては如何でしょう。

1月のバースデイ

ブッチ



施設で青春を
振り返ります

シゲ



還暦まであと1年!

イサ



くつ買ったから走る

イシ



z z z

ノボル



幸せになりたいです

十三



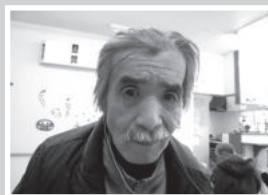
一緒にがんばろう

ペータ



年はとりたくないね

ネモ



みなさん、高齢者を大切に

ヤマジュン



これからも
元気でいたいね

モリ



73 歳になります

ノウ



あんだあ〜

キク



今年こそ!!

サク



66 歳まで生きる

タイラ



誕生日
おめでとうございます

ノブ



作業頑張ってます

キタ



クリーンを伸ばします

事務局からのお知らせ

本誌を定期的に購読することをご希望の方はぜひ「定期購読会員」のご登録をお願いいたします。私たちは、生きづらさを感じている方やそのご家族・支援者の方々、そして地域の方々に、当法人の取り組みや「依存」との向き合い方を伝えたいという思いで潮騒通信『どっこい生きてます』を発行しています。1人でも多くの方の手に届くことを願っております。

問い合わせ先

購読会員登録係 **0299-77-9099**

購読会員を
募集
しています



1月の行事

- 1月4日 初顔合わせ
 1月6日 水戸保護観察所スマーブ(中止)
 1月14日 潮騒俳句会
 1月16日 条件反射制御法研修会(中止)

2月の行事予定

- 2月3日 鹿島神宮豆まき(予定)
 水戸保護観察所スマーブ(中止)
 2月11日 潮騒俳句会(予定)
 2月20日 条件反射制御法研修会(予定)
 2月26日 東京第19回くらしフェスタ立川
 センター長講演(予定)

感染予防対策を徹底して行います。
 状況に応じて中止や延期になる場合があります。

ごまめの歯ざしり

今月号から編集担当があとがき風のメモを記します。まずコロナ禍の影響で、昨年は半年余りの休刊となったことを読者の皆様にお詫びします。この間、各方面から問い合わせがありましたが、きちんとしたご説明ができずに申し訳ありませんでした。暫定的ですがやっと発行態勢が整い、減ページながらも再刊に漕ぎ着けることができました。再刊間もなく、いったんは栗原センター長の巻頭言休載を告知しましたが、予想を超えて読者の支持が根強くあり、継続を求める声に応じてセンター長も再開に踏み切ってくれました。なお本コラムには、自分たちの力量不足を認めながらも、その悔しさをバネに奮起しようというメッセージを込めました。潮騒の仲間たちはコロナなんかには負けないぞ、と。

皆さんからのご意見、ご批判、ご要望などをお待ちしています。

(勝)

献金・献品を頂いた方(1月15日現在)

- ・ 社会福祉法人 うえるさんて
理事長 浅水 尚伸 様
- ・ 吉田 明 様
- ・ 内堀 高良 様
- ・ 石綿 茂子 様
- ・ 高田 武義 様
- ・ 有限会社柴田工作所
代表取締役 柴田 宣政 様

今月も献金・献品をいただきました。心から感謝申し上げます。
 本当にありがとうございました。

おかげさまで潮騒 JTC は、回復のためのプログラムを
 実践することができておりますことを
 ご報告いたします。今後ともご支援くださいますよう、
 何卒よろしくお願い申し上げます。

※その他匿名の皆様からも献品・献金をいただきました。

ありがとうございました。

※発送作業簡略化のため、振込取扱票は全員の方に同封させて
 いただいております。どうぞご理解のほどをお願いします。

潮騒通信 どっこい生きてます! 2021年1月号

Contents

P② 巻頭言: MESSAGE from YUTAKA

コロナ禍で潮騒独自の日常と生活スタイルを模索!

P③ コロナ禍における施設運営の課題と展望

第1回「依存症の回復とは逆の流れにどう抗する?」

P④ 2021 今年の抱負

・ 女性ハウス「るみの家」施設長 栗原ルミ / 農作業指導、トラブル対応、サポーター相談役、エイサーリーダー 加勢ヒトシ

P⑥ 「るみの家」めいの回復(途上)物語 P⑦ 受刑者からの手紙

P⑧ しおさい俳壇 1月のお題「雪景色」 P⑩ 1月のバースデイ P⑪ 行事予定 / ごまめの歯ざしり / 献金・献品 / 目次



■ 編集・発行: 特定非営利活動法人 潮騒ジョブトレーニングセンター
 理事長: 栗原 豊

本 部: 〒314-0006 茨城県鹿嶋市宮津台 210 番地 10

事務局: 〒314-0031 茨城県鹿嶋市宮中 4 丁目 4-5

潮騒アディクションビレッジ会館 4 階

TEL:0299-77-9099 FAX:0299-77-9091

E-メール siosai2010@yahoo.co.jp

ホームページ http://shiosaidarc.com/



前列左から栗原センター長、カイトさん、母親のアキラさん、ルミさん

漁師を目指して奮闘するカイトさんの成人を祝う

潮騒JTCで最も若い入寮者のカイト(本名・菅原海登)さんが二十歳の節目を迎えました。11日(成人の日)には栗原センター長らが参加して、潮騒食堂で心のこもった「お祝い会」がもたれました。18歳から潮騒で施設暮らしを続けるカイトさんですが、現在は地元の漁師さんの支援を得て、職業訓練の一環として漁業の見習いをしています。認められれば4月から正式に雇用される予定で、社会での自立が期待されます。カイトさんは「潮騒はお年寄りが多いけど、いろんな大人に

出会えて勉強になっています。海でもいろんな魚に遭遇し、とても新鮮な体験の日々です。漁業は厳しくて大変な仕事ですが、頑張って一人前の漁師になりたい。20歳になったので大人としての自覚を深め、早く自立できるよう頑張ります」と抱負を語ってくれました。実はカイトさんは母子入寮者です。母親のアキラさんも潮騒食堂「おらげのかまど」(就労支援)で働いています。この日、傍らでは母親のアキラさんが我が子の成長に目頭を熱くしていました。

